第34回 卒業式

高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南
町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任　小坒千賀子
発行責任　富　和夫

青年時代には、不満はあっても悲観してはならない。常に抗戦し、かつ自衛せよ。
魯迅

羽ばたけ未来へ

本日、卒業される皆さんおめでとうございます。卒業にあたって校長先生・教頭先生ならびに三年生各クラス担任の先生方から、お祝いの御言葉をいただきました。皆さんの御健闘と御活躍を心からお祈りいたします。

具体的主張を持て

校長　平田　泰世

この冬休みに、三年生の就職内定者全員に作文の宿題を課した。「こんな人になりたい」「阿倍高生活をふりかえって」から一つ、「冬休み中に思ったこと」「〇月〇日の日記」から一つ計二篇ずつである。これは数年来の私の年中行事でことしも私をうならせる秀作が若干あったものの、概して心を打ったのがすくない。卒業後は阿倍高の名を恥かしめないようにしたいとか、幸福な家庭を築きたいとか書かれている。それ自体は健康的であり結構なことで、ぜひそうしてほしい。しかし、主張に具体性がなく、個性的でもない。読むほどに内容に深みがなく、いわば決意表明か、単なるお題目ないしは努力目標に過ぎない感がする。

若者は行動力で特徴づけられる。願わくば、いますこし具体的内容に迫り、現実を冷厳に正視して具体性を追究してほしい。このことは、独り就職内定者においてのみならんやである。

卒業生諸君へ

教頭　中西　昭次

第三十四期卒業生の諸君卒業おめでとう。近頃自分自身の出身校のものや、こちらが教師になりたての頃のふるい教え子たちの同窓会に出席する機会が多い。卒業後二十年、三十年と月日が経って久しぶりに会ってみると実に様々な感慨を持つことがある。高校時代はさほどとは思われなかったのに素晴らしく成長して今では一種の風格さえ感じる人、平凡のなかに誠実さのにじみ出ている人、また、かつては秀才の誉れ高く将来を嘱望されてはいたが意外にも伸び悩んでいるふうにみえる人等々である。さて、卒業生諸君のこれから二十年、三十年先の姿はそのいずれであろうか。自分で見つけた自分の道を自分の足どりで着実に進むよう祈念している。

一組担任
広川　竜男先生

〝贈る言葉〟

まず野郎共へ
一、酒は飲めるようになれ
二、ケンカは時にやれ
三、勝負をかける時を失するな
四、よく遊び、よく遊べ
五、逃げないで、向って行け

御令嬢方へ
一、女に好かれなくても男に好かれる女になれ
二、良妻賢母となれ
三、ぬかみそくさくなるな
四、日本を背負うよい子供を産み、育てよ

二組担任
増田　和一先生

「すべての訓練は、当座は喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になればそれによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせる。」

これは、パウロがヘブル人に寄せた手紙である。どんな困難も、それを最も強く思うのは始めるまでで、一度実行に移せば案外楽々とできるものである。困難を思う前にまで始めてみなさい。

三組担任
伯井　重行先生

自意識は、時にあわれな気取りをその人にもたらす。しかし、自分にとって自分が何者であり、他者にとって自分がどういう存在か思い悩むのはよいことである。自意識に苦しむのは青年の特権と言ってよい。そして、苦しみが深いほど、その人に豊かなみのりある生がもたらされるだろうと僕は信じている。ではお元気で。

四組担任
吉本　清先生

高校生活は終わった。しかし、人生はこれからが本番である。

思い出はつきないが、前途は洋々である。波乱含みでもある。決して平坦な道だけではあるまい。

それにまだまだ未熟でもある。しかし若さがある。

謙虚に、そして勇気をもって、常に自己改革と社会進歩をめざして、力をあわせて進もうではないか。

努力の汗を流してこそ、喜びも、ひとしおである。

五組担任
小豆島禾兆先生

諸君の卒業を心からお祝い致します。これからは自分自身の判断と力で事に処してゆかねばならぬ時が多くなることでしょう。日頃の努力によってパワーを自分の内に貯え前進のエネルギーを絶やさぬように心がけてください。人生のはじめの段階で、あまり早くから性急に自分の力に見切りをつけないで、可能性を根気よく伸ばすようにすれば思ってもいなかった結果を得ることも出来るのです。

六組担任
安芸　研一先生

みのるほど頭のさがる稲穂かな　（よみ人知らず）

長期間、丹誠を込めて育てられた稲でも、当世流行の、突っ張ったままのものは「青立ち」といって、もはやどうにもならない。

孔子も顔渕に「之を用ふれば則ち行なひ、之を舎つれば則ち蔵る。惟だ我と爾とのみ是れあるかな（述而篇）。」と言っている。

日頃の努力が自然にあらわれるのを待とうという謙虚な姿勢がそこに見える。心しようではないか。

七組担任
石川　信子先生

卒業おめでとうございます。

日本の有機化学の父と呼ばれる長井長義博士は常に学生に「物質を失うこと、失敗することは何も失ったことにはならない。勇気を失うこと、やる気をなくすことは全てを失うことであり、もうおしまいである。」と教えておられました。どうか健康に呉々も注意して、明るく、誠実に、そして難関に出合った時は右の言葉を思い出して頑張っていただければと存じます。

八組担任
山口　真秀先生

卒業おめでとう。

桜の花が咲くように、三年間の高校生活を終え、新しい生活への一歩を踏み出したのです。無事に希望の進路へいけた人、頑張って下さい。不幸にも失敗した人、来年には自分の希望を満たせるように、特にしっかりして下さい。

人との協調、社会に出てから様々な事があるでしょう。苦しい事もあるでしょう。くじけず、自分を見失なわず、それぞれの道をしっかりと歩んで下さい。「おめでとう」

イラスト
二年三組　南木　章君

就職内定者

本年度は例年と比べて、一般企業・公務員等とも内定者が増加したことがあげられる。各自の努力の結晶が、このような良い結果として表れたことは喜ばしいことである。

三年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。学校生活に終止符をうつことになった皆さんは、寂しさもあると思います。しかし新しい自分達の道をみつめて前進するように頑張って下さい。

本年度の就職内定者は次の通りである。

三和銀行
伊東　悦子（三組）
西　美雪（五組）
高橋　明美（六組）
住友銀行
満森　久美（四組）
大阪興銀
神田　優子（一組）
第一勧銀
宮崎　久子（二組）
ミノルタカメラ
篠原三和子（四組）
藤沢薬品
土井　有子（三組）
武田薬品
大野ひろこ（六組）
太陽酸素
井上百合子（四組）
阪和興業
阪田久美子（三組）
松下電器
山本まゆみ（二組）
坂田　真弓（二組）
藤元富士美（六組）
前川　雅代（四組）
関西電力
大柿　譲（五組）
大阪ガス
福島　剛（四組）
家治　弘美（五組）
資生堂
石田　智子（六組）
トヨタカローラ南海
前田　靖宏（六組）
三越大阪支店
谷口　京子（三組）
ローランド
金　厚子（三組）
和光商会
野山　正浩（七組）
スタンダード石油
丸本　哲広（六組）
電々公社
西村　敏次（八組）
森口喜美子（四組）
日本サンガリア・ベバレージ
古川　一江（三組）
東洋ステンレス
新　ふみ子（六組）
中村美恵子（六組）
オージーロイヤル
寺田たつ子（六組）
ダイエーリース
木下　紀明（四組）
東条　光美（五組）
竹葉亭
竹内　正典（三組）

公務員
—国家—
松谷　真治（一組）
松田　利雄（二組）
北池　佳子（三組）
奥堀　正和（五組）
（税務大学校）
—大阪府—
沢田　栄挙（三組）
小田　義朗（三組）
—大阪市—
奥堀　正和（五組）
—府警察官—
田丸　能之（五組）
吉見　明彦（八組）
—市消防局一次合格者—
相田　光一（五組）
吉川　伸幸（六組）

針の穴

世の中の人間を二種類に分けるとすれば、何事も積極的に取り組むタイプと、反対に、ちょっとでも面倒な事には逃げ腰の姿勢をとる消極的なタイプに分けられるだろう▼阿倍高生の場合で言うならば、殆んどが後者にあてはまるだろうか。第一期の執行部の任期も、先月いっぱいで終えたわけだが第二期の仕事には、自治会予算案などの仕事がありなかなか忙しそうだ▼生徒の中には、執行部などなくてもなんとかなるだろうという甘い考えの者の方が多いのではないか▼また、こういったことは、執行部に限らず他の部会や委員会に対する考え方についても言えることである。委員自身でさえも、やる気のない者が多い▼ところが不思議なことに、同じ委員でも部会などの種類が違うとその出席率も異なる。やはり、毎回、厳しく集合させられる部会などは、割合、出席率が良い。それに比べ後期の議会などは、中心となるべき二年生が、殆んど欠席していた為に議会がお流れになったこともしばしば。あきれたものである▼どうやら、無気力だの何だのと言われる阿倍高生と言えど人を見る目とやらだけは、他に劣らないようである▼最近、世の中では「知る権利」などという言葉がもてはやされているが、我が阿倍高ではその反対である。これでは文化祭をはじめ、他の行事がどうであろうと影でぶつぶつ文句を言えた義理ではなかろう▼面倒なことは最初からわかりきったことである。しかし最後には誰かがやらねばならないのだ▼「そしらぬごんべえ」でいられるのは今のうちだけである。食わず嫌いなどと言わず、まずにおいを嗅いで、一口だけでも試食してみてはどうだろうか。（針子）

熱気あふれる決勝戦

—冬季クラスマッチ—

二月五日から十二日まで行われた冬季クラスマッチは、小雪の降る中での試合もあったが、大したアクシデントもなく、無事終了した。ここで、試合の模様を紹介しておこう。

一年サッカー決勝

三組対五組

八組に勝った五組と、四組にPK合戦で勝った三組との決勝試合である。

この試合は三組のキックオフで始まり、前半、よくセンターにボールをつないでいた三組が優勢に見えたが、五組のバックは固く、なかなかシュートできなかった。中盤、スローインしたボールを左に運んだ五組が猛走、ゴール前でゲームを進めるが、三組のバックも相当固く、ゲームは決勝戦に似合って白熱した展開を見せていた。終了間近、五組がゴール前で間接フリーキックしたボールを、うまく処理した三組がシュート。だが惜しくも右へそれ三組前半最後の得点のチャンスを逃した。結局0対0で前半終了。

後半、陣地を変えて、五組のキックオフで始まり、後半開始後すぐ、三組が左を使って猛烈に攻め入るが五組バックの必死のブロックに返されチャンスを逃す。逆に五組は開始十二分後、ゴールキックのボールを左へつなぎ、ロングシュートを決める。このシュートが後の試合の流れを大きく変えたのであった。その後、五組が三組陣内で圧倒的にゲームを進め、三組に攻めこむすきを与えず、五組優勢のまま試合終了。結局1対0で五組が優勝を納めた。決勝戦らしく両チームとも全力を尽くした好ゲームであった。

二年ラグビー決勝

四組対六組

八組を2トライ差で下した六組と、九組を4対0で下した四組との決勝戦である。

前半最初、四組陣内でゲームを進めた六組が優勢であった。まず六組がサイドライン中央からスローインしたボールを、うまく右、左と横につなぎながらゴール前へ攻め入り、もみ合いのすえ右ゴールへ、先制トライした。その後も六組はゲームを優勢に進め、試合開始十二分後、センターから出たスクラムのボールをゴール前へロングキック、それをうまく受け、ゴールに独走し二回目のトライをきめる。一方、四組は、六組陣内でどうしてもゲームを進めることができなかった。結局8対0で六組優勢のまま前半終了。

後半、前半とはうって変わり六組陣内でゲームを進めた四組が、ゴール前のスクラムからのボールを横につなぎ、右ゴールへ猛走、トライした。その後も四組はセンターからのスローインしたボールを受け、ゴールへと独走するが、寸前でトライならず、得点のチャンスをのがす。逆に六組は自分のサイドでゲームを進めることができずゲーム終了。結局前半の8点が後々響き8対4で六組が優勝した。決勝戦らしく両チームとも力いっぱい、ぶつかった好試合であった。

シュート決まるかな？

優勝

総合優勝　朱雀

一年男子　五組

二年男子　八六組

一年女子　六組

二年女子　四組

一年バスケット決勝

一組対六組

この試合は、六組にリードされていた一組・Cチームでの追い上げが見ものであった。

Aチームは、六組が試合開始後一ゴールした。しかし、一組もすぐに得点するというような、五分五分の試合経過で、まずは4対3で一組がリード。Bチームの試合は、前半からパス、ドリブルの好プレーが続きあっという間に一組を引き離した。一組は、六組の迫力ある攻撃に完全に圧倒された形となり、得点できず16対0という大差で終った。期待されたCチームの試合は、六組が得点を先取したが、それ以後、一組が波に乗ってきた。奇跡的なシュートが連続して決まり、一組の逆転優勝になるかとも思われたが、12対3で試合終了。A・B・Cチームの合計22対16で結局六組の優勝となった。

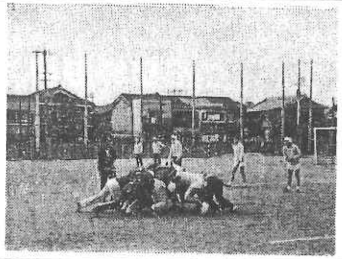
一年の試合も、二年に負けないほどの善戦で、手に汗せ握る熱戦といった感じであった。

二年バスケット決勝

四組対七組

決勝戦という緊張を吹き飛ばすような、勢いのあるゲームが展開された。

Aチームの試合は、両クラスともゴール近くまで行きながら、なかなかシュートが決まらなかった。しかし後半、ようやく四組がシュートを決め、その一ゴールがきっかけとなって波に乗った四組は、5対0でリード。Bチームは、やや反則の目立つ試合ではあったが、Aチームに続いて前半から四組が素早い攻撃を見せ、七組は押されムードであった。この試合でも七組は得点することができず、次の試合に望みを懸けることになった。Cチームの試合は、A・Bチームとはうって変わって七組のペースとなった。七組はバスケットボール部員による速攻が目立ったが、七組も負けずにそれをさえぎる。後半、七組が追い上げるかと思われたが、6点でとどまり、6対4。A・B・Cチームの合計17対6で、四組の優勝となった。なお、二十回を越えるヘルドボールがあったことが、印象的だった。



ボールどこやねん！

部説

自分の進路を大切に

今日、三年生は阿倍高を巣立って行く。それぞれ、自分の進路を決めたわけだが、その進路の決め方が「安易」だと、最近よく言われるようである。

「安易」とは、「のんきでいい加減なこと」「努力しないでできること」という意味である。まさに、この言葉の通り進路を決めるまでたいした努力もせず、高校生活をのんきに過ごし、土壇場になって、あわて始めるという人が、増えてきているのではないだろうか。

「進路を安易に決める」というのは、自分自身に甘えがあるからである。何とかなると思っているうちに、おしまいには自分の志望する進路を変更しなければならなくなってしまう。

現在、大学へ進学する人が、やはり多い。大学へ行きたいというのには、「親やまわりのものに行けと言われるから」「遊ぶため」「自分の将来の目的を果たすため」とかいうのがあるだろう。この三つ目の「将来の目的を果たす」と思っている人は、確固とした目標があるのだから、こつこつがんばり、それなりに夢がかなえられるだろう。しかし、前の二つの考えで、進路を決めようとしている人は、どうしても「安易」になってしまうようだ。

「大学へ行けと言われる」「遊びたい」というような人は、最後になって、コロコロ進路が変わるようである。一応志望していた大学があるとして、三年生になってから、その大学は無理だと言われたとする。すると、そういう人たちは、「就職に変える」「いくつも大学を受けて、入れるところへ行く」とか思うのではないだろうか。とりあえず、「一浪して入る」という人もいるだろう。

客観的に見て、「進路の決め方が安易」だと言われても、当人が納得していれば、それは「安易」でないかもしれない。自分の進路を決める判断が、正しかったかどうかは、決断した時点ではわからないのである。しかし、「安易」に決めたと、はたから言われる人は、自分で進路を選択したのにもかかわらず、たいがいは、「あっちにすればよかった」「もっとがんばっておけばよかった」と思うのではないだろうか。

誰でも、楽をして暮らせるのなら、そうしたいという考えはある。無理をしなくても、高望みをしない限り、ある程度の幸せを得られるのならそいれでいい、と思う人が結構多いかもしれない。女子の場合、最終的には職を捨てて「結婚する」のだから、たいていそう思うだろう。しかし、男子の場合、やはり良い大学を出た方が有利だという考えからがんばる必要性がある。必要性において、表面的な観点から見れば、女子の方が、その必要性は低いであろう。

しかし、内面的な観点から見れば、男子にしても女子にしても今から努力して自分の足場を固めることが必要である。女子は結婚して子供ができたとき、初めてそれがわかるのかもしれない。

いずれにせよ、進路を「安易」に決めて、そのレールに乗ってしまうと後で必ず後悔するはずである。結局、泣くのは自分なのだ。今、「これで幸せ」と思っていても、それが本当の幸せかどうかはわからない。

花を咲かそうと思えば地道に努力しなければならない。いつでも「努力」は必要なのである。

生徒自治に危機

執行部二月の下旬に選挙

一月二十九日に予定されていた自治会役員選挙は今回行われなかった。理由は、選挙管理委員会を結成させなかったことである。その選挙管理委員は各クラスの議員二名のうち、一名が選出されることになっている。結成されなかった原因は議会を開いても議員が全員出席しないところにあるようだ。議会を開くのは毎週木曜日で、時間は十二時四十分からである。しかし議員の集合が遅く、十分ぐらい遅れて半分集まる程度である。最初のうちは出席率はよかったが、しだいに悪くなり、今では一年生も出席しないクラスがあるようだ。その人たちの頭の中には「出席しなくても怒られない」「たぶん、人数が足りなくて議会は開かれなくなるだろう」などという考えがあるからだろう。そして、議員二名が議会に出席していても選挙管理委員になるのはいやだといったクラスがあって、なかなか決まらない。そのようなことで議会の議長は、選挙管理委員会の結成を二週間ほど怠った。しかし、議会の議長は「選挙管理委員会は絶対に結成させる」と言っている。いずれにせよ、生徒のやる気にかかっているようだ。

最近は生徒にやる気というものがなくなってきたように思われる。みんな執行部の仕事を避けているようだ。たぶん、自治会のメンバーになると「いろいろな仕事をしなければならないのでしんどい」「遊ぶ時間が少なくなる」などと思うからだろう。また、二年の中にもまだ執行部の機関がどうなっているか知らない人も少なくないようだ。これでは一年の半分以上が知らないのも当然である。これからは執行部の機関がどうなっているかなどもっと知っておく必要がある。それから、クラスのホーム委員の選出でも、立候補者がいないか、いても一人か二人程度で、残りは投票になる。そして自分が委員になったら、その仕事をいやいやするのである。こんな調子でいくと執行部はどうなるのだろうか。いずれにせよ、先行きが暗いようだ。もしかすると執行部は自然消滅するかもしれない。こうならないためにも生徒の積極的な執行部への協力をしてほしいものだ。

なお、自治会執行部不成立の場合、全自治会活動停止にならざるを得ない。

議会の議長に尋ねたところ「クラスマッチの後、完全に選挙管理委員会を結成させ、二月下旬に自治会役員選挙をして、執行部を成立させる予定だ」と言っている。

去年の自治会役員選挙では、選挙管理委員会は結成したが、立候補者がなく、執行部は成立しなかった。それで、部会代行制を行っていた。今の状態ではそうならないとは言えないだろう。

先ほど、二月下旬に自治会役員選挙を行うと述べたが、それも今の状態では不可能になるかもしれないだろう。選挙管理委員会が結成しても立候補者がいなければ選挙はできない。

このような執行部の問題は当分続きそうである。それは、阿倍高にとって重要な問題である。

編集後記

卒業生のみなさん御卒業おめでとうございます。卒業生のみなさんに、新聞部より詩を贈らせていただきます。

〃素直〃
素直であれば
　　　それでいい
どんな時でも
何があっても
　私は自分を信じ
そして
　　人を信じる
一つの事ができればいい
一人の人が理解して
　　　くれるなら
　それが幸福
独りでも生きていく
独りになっても
　　生きていける
素直であれば
　　　それでいい

これから数多くの失敗や成功をくりかえすことでしょう。そしてどんな困難に出会うかわかりません。しかし、どんな事にも逃避の姿勢でなく、自分が正しいと思ったことを最後まで貫き通すような、強い信念をもってほしいと思います。

一日一日を大切に、そして自分自身を大切にし、自己の個性をみがいて下さい。阿倍高での思い出を忘れず、いつまでも私たちの良き先輩であって下さい。